

# 平成30年度第1回柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会議事録

## 1 日時

平成31年1月22日（火）午後3時から午後5時まで

## 2 開催場所

ウェルネス柏4階研修室

## 3 出席者

### (1) 委員

加藤桂子委員，窪谷潔委員，佐藤紀子委員，鈴木美岐子委員，橘房子委員，中矢静子委員，卷淵順子委員，柳川幸重委員，和田靖之委員，渡邊智子委員

### (2) 事務局

- ・保健所 山崎 所長
- ・保健所 能崎 次長（総務企画課長兼務）
- ・保健所保健予防課 荒巻 専門監（課長代理）
- ・保健所地域保健課 根本 課長
- ・保健所健康増進課 米元 統括リーダー（課長代理）
- ・こども部こども福祉課 三富 課長
- ・こども部保育運営課 山口 専門監（課長代理）
- ・こども部こども発達センター 黒須 所長
- ・学校教育部学校保健課 藤田 課長
- ・（こども福祉課）星 副参事
- ・（地域保健課）伊藤，中村，川崎，小森，大滝，磯村，廣田，中山，中沢，齋藤

## 4 資料配布

- ・資料①「柏市母子保健計画の進捗報告」（柏市母子保健計画指標進捗データ）
- ・資料②「基本施策の優先的取り組み・政策工程表」
- ・資料③「今年度の母子保健の主な取り組みと成果及び課題と平成31年度の主な取り組み予定について」
- ・資料④「柏市母子保健計画にかかる取り組み進捗状況シート」
- ・追加資料「母子保健計画スケジュール」

## 5 議事概要

### (1) 開会

- ・ 所長挨拶
- ・ 資料確認
- ・ 会議成立

委員 13 名中 10 名の出席にて，会議の成立を報告。

(足立委員，菊池委員，二瓶委員は欠席)

- ・ 委員交代・紹介

柏市小中学校校長会齋藤委員に代わり加藤委員，千葉県柏児童相談所所長奥野委員に代わり二瓶委員が交代。

- ・ 会長挨拶・傍聴人確認

傍聴人 0 人。

### (2) 議題

ア 柏市母子保健計画の進捗報告について（事務局説明）

- ・ 柏市母子保健計画指標推移を説明。
- ・ 基本施策の優先的取り組み・政策工程表を説明。

#### 質疑応答

- ・ (佐藤委員) 資料①平成29年度の進捗状況の評価は，5年後の目標値と照らしての理解でよいか。
- ・ (事務局) 5年後の目標値と照らし合わせて評価している。
- ・ (佐藤委員) 資料②政策工程表では，前年度空欄で30年度から充実になっている事業もあるが，ここまでやらないではなく優先的に取り組む事業を推進していくことでそこが充実されていくという見方でよいか。
- ・ (事務局) その通り。
- ・ (窪谷委員) ハイリスク妊婦の割合と特定妊婦の割合が増加傾向なのは，特定妊婦等をしっかりと認識できるようになったことだと思うがどうか。
- ・ (事務局) 平成29年10月から妊娠届出時の専門職による全数面談が始まり把握する件数が増えている。特に，保健師判断としてハイリスクの項目に入らないが支援したほうが良いというケースを把握できるようになったと捉えている。

- ・（窪谷委員）頑張っていると感じている。引き続きお願いしたい。
- ・（佐藤委員）報告書には把握人数という集計もしたほうがいい。
- ・（鈴木委員）資料① 1 1 番仕事を持つ妊婦の割合が 2 7 年度から空欄の理由は。資料②優先順位は、年度により順位が変わるのか。
- ・（事務局）資料① 1 1 番仕事を持つ妊婦の割合は、母子保健計画策定時のアンケートにより、以後実施していない。来年度中間評価時に策定時同様のアンケートを実施予定。資料②は 5 年間の工程表であり、5 年間はこの優先順位で進行していく。年度によって変わることはない。
- ・（佐藤委員）3 2 年度中間評価で見直し、次の 5 年間は優先項目が変わる可能性もあるか。
- ・（事務局）はい。
- ・（巻淵委員）資料① 3 3 番歯肉に炎症がある 1 0 代の割合は、数値が上がっている。このデータは毎年実施する小中学校の歯科検診結果をもとにしている。歯科検診は柏歯科医師会が柏市と契約して行っているが、体育館等の見にくい会場もあり、視診にばらつき出てしまうため、歯科医師会衛生委員会から周知している。この年代に歯肉の炎症が起きるのは、生活環境の変化や家庭の養育環境問題が疑われることもある。
- ・（学校保健課）歯肉に炎症がある 1 0 代の割合は、生活習慣等いろいろ要因はあるが、教育委員会の報告からははっきり申し上げることにはできない。歯科医師会の先生方にもご協力をいただいているので、今後ともよろしくお願いしたい。
- ・（佐藤委員）スクリーニングスキルが上がれば今まで見逃されていたものが把握されるので、数値が悪く見えることがある。スクリーニング研修をした等の実績があれば、スキルが上がった可能性もあるので、背景も併せて特記事項に記録した方が分析しやすい。歯肉に炎症がある 1 0 代の割合が増えるとどのようなリスクにつながるのか、対策はあるのか。
- ・（巻淵委員）小学 1 年生の 4 月に歯科健診を行うと、父兄の関心が高い時期なので口の中は綺麗だが、口の中の状態が悪い場合は家庭状況が心配になる。口の中の状態が良くないと、虫歯が

増え新しい歯が変な方に出たり，体の中に細菌が入り全身に影響を引き起こすこともある。友達との付き合いも難しくなってくる等，生活に影響することもある。

イ 今年度の母子保健の主な取り組みと成果及び課題と平成31年度の主な取り組み予定について（事務局説明）

#### 質疑応答

- ・（窪谷委員）ハイリスク妊婦への対応に加え，ハイリスクにならないため，健康な妊娠出産のためにどのような教育が必要なのかが課題となってくる。プレコンセプションケアが大事。
- ・（事務局）全数面接で把握しきれなかった妊婦を，産科医療機関から教えていただき，連携がとれている。
- ・（佐藤委員）産婦人科から保健所に連絡が入りフォローするケースは増えているのか，件数は取っているか。
- ・（事務局）他機関から連絡のフォーマットを作成している。件数は昨年度より増えている状況。2月に産科医療機関等意見交換会を開催予定。産後のうつ予防の視点では，夫婦間の意思疎通がうまくいくよう，ママパパサロンにてコミュニケーションの取り方について組み入れていく。
- ・（和田委員）こうのとりのサロンやかんがるーサロン等のアナウンスはどのようにしているか。一般医療機関にポスターが貼ってあると利用しやすいのでは。
- ・（事務局）今年は個別に電話等でアプローチした。今後の周知しについては検討していく。
- ・（和田委員）医療機関に提示できればいい。
- ・（柳川委員）アクセスが重要なので，駅前すこやかプチルームはいいこと。8か月児相談事業は，同じ年代の子どもを持つ方と話すので意味がある。2歳代から3歳代は第1反抗期という知識があると，お母さん方は悩まないで済む。集団で同じ年代の人を集めるのは意味がある。
- ・（事務局）今年度新規事業として8か月児相談を実施し，来所率は7割近い。情報発信と個別相談の場になっていて，手ごたえを

感じている。引き続き実施していく。

ウ 関係機関・関係課における取り組みについて

- ① 柏市私立幼稚園協会：教育研究所と幼稚園協会で幼児教育共同研究推進委員会を開催し，来年度10年目を迎える。柏市の幼児の体力測定を行い，子供達の遊びについて研究している。こころからだはずむ柏っ子を研究テーマに掲げ，研究成果を冊子にまとめている。育児相談や園庭開放，親子教室開催，園だより発行，子育てフェスタを毎年実施。
- ② 柏市小中学校校長会：給食の食物アレルギーについて保護者から申し出があった場合，医療機関受診後に保護者と面談。毎年必ず受診を促し，保護者に協力していただいている。健康教育は，低学年は保護者への指導，高学年は自分で健康を作っていく意識を育てる事が大事。口腔衛生の啓発活動は，毎年の歯科検診でむし歯がある場合「治療してください」と連絡し，「終了しました」の報告を歯医者からもらう。治癒率を大事にしている。こども自身にむし歯がない健康な歯の大切さを指導し，保護者には手紙を出し健康な体づくりの推進に努めている。教育委員会生涯学習課と連携し，研修会に取り組んでいる。6年生児童と全保護者を対象に，助産師に命の授業をしていただいた。保護者アンケートに，研修を引き続き開催して欲しいと意見があった。地域の特色に合わせた健康な体作りを進めていく。毎年の健康診断と合わせて体力テストを行っている。体力低下傾向があり，体育授業や休み時間等の運動でカリキュラム等工夫している。
- ③ 千葉県助産師会（事務局説明）
- ④ 柏児童相談所（事務局説明）
- ⑤ 柏市民健康づくり推進員連絡協議会：近隣センターごと20地域を拠点とし，各地域特色ある活動を実施している。推進員のあかちゃん訪問は，生後3から4か月程度のお子さんがあるご家庭を訪問。母と子のつどいは，妊婦さんから1歳6ヵ月位までのお子さんとその保護者を対象に月に1回近隣センター等で，同じ地域で子育て中のお母さん同士の仲間作りのお手伝いをしている。子

どもと2人ぼっちにならないような孤立予防のため、参加しやすい日程や内容にしている。地域の健康講座では、にじいろ救急隊から、子どもの救命救急・応急手当について保護者を含め教えていただいた。思春期保健として、地域の小中学校が行う命の大切さを伝える授業に参画している。

⑥保健予防課：HIV等の検査や相談事業をとおして性感染症のまん延防止、情報提供やキャンペーンを実施し普及啓発に努めている。HIV等検査は年600件前後の受検者がいる。自分で自分のことを守るため若い世代の啓発が重要。各機関との連携を図っていききたい。

⑦健康増進課：予防接種は、定期予防接種に加え任意予防接種としておたふくかぜ、成人の風疹、成人の風疹抗体検査を実施している。10月から、風疹抗体検査対象者に妊婦の夫を追加し拡大した。平成31年度は、39から56歳までの男性の風疹抗体検査と予防接種が定期接種化される予定。引き続き関係部署、関係機関と連携し安全に予防接種ができる体制整備を図っていく。

8月のノースモッ子作戦協議会で今後の取り組みに関する意見交換を実施し、今年度小中学校を対象にノースモッ子作戦に関するアンケート調査を実施した。禁煙外来や禁煙支援薬局を広く市民に周知するためマップを作製し配布した。

⑧子育て支援課（事務局説明）

⑨こども福祉課：柏市要保護児童対策地域協議会のネットワークを活用し、要保護児童・要支援児童及びその保護者と特定妊婦に関する情報やその他の家庭状況等を共有し、役割分担して児童虐待の早期発見、早期支援に取り組んでいる。平成30年度こども家庭総合支援拠点を位置づけ、児童家庭等に関する現状把握、情報提供、相談対応、調査、指導、関係機関との連絡調整を、柏児童相談所や母子保健関係機関と連携強化して取り組んでいる。職員の人材育成は、研修開催、外部研修への積極的参加、児童相談所OBによるスーパーバイズを実施。要保護児童対策地域協議会のケース進行管理の確実な実施、子ども家庭総合支援拠点と子育て世代包括支援センターの連携強化のため、保健所連絡会を毎月実施。

ペアレントトレーニング，産後ケア，養育支援訪問事業の利用者は増加傾向にあり，ペアレントトレーニングは回数を増加，産後ケア事業は委託医療機関を追加をした。

- ⑩ 保育運営課：すべての公立保育園で，園庭開放，育児講座，相談事業の実施を行っている。育児講座は，地域の保護者が参加しやすいように内容を検討し，平成29年度60講座，2,511名の参加があり，リトミックやリズム遊び，親子フラダンス，わらべうた，離乳食の作り方，しかり方など子育てに関するものを実施。園庭開放に来た保護者に積極的に声をかけ相談にのっている。
- ⑪ こども発達センター：幼稚園や保育園，こども園，学校，民間児童発達支援センター，児童発達支援事業所等と連携し，発達が心配なお子さんの相談や養育支援につなげる事業等をしている。療育のニーズは年々増加傾向にあり，民間療育機関も増加している。民間と連携を強化し，必要な子どもの情報提供等も今後必要。
- ⑫ 学校保健課：健康教育は，性教育・薬物乱用防止教育，がん教育，いのちの教室等あり，薬物乱用防止教育は9割の学校が実施しているが，がん教育は2割程度と内容により実施回数が違う現状。いのちの教育で助産師会に協力をいただいている。専門的な知識をもった外部団体との連携を進めていく。
- 食育について，健康的な生活習慣の習得のため実施しているが，学校により差がある。アレルギーについては，栄養職員と養護教諭が連携をして取り組んでいきたい。

#### 質疑応答

・（渡邊委員）子育てサイトはぐはぐ柏に，駅前すこやかプチルーム等の情報を掲載すると良いのでは。柏市の栄養教諭や学校栄養職員は良い授業をしている。学校によって差があるが，食べる事は基本で一生ついてまわるので，均一に実施すると将来的に良い。学校給食は最初に栄養教諭としていただくと良い。アレルギーはとても大きな課題で，栄養教諭だけではなく，学校全体で取り組んでいくべきもの。学校給食の給食室にアレルギー専用の部屋を作って病院並みに管理しているところもあり，今後そのような取り組みもしていければ良い。

- ・（事務局）はぐはぐかしわには，母子保健の情報を必ず掲載している。駅前すこやかプチルームや妊娠子育て相談センター等も掲載させていただいている。
- ・（学校保健課）アレルギーの問題については，校長会や養護教諭等と検討をしているところ。

(3) 事務連絡

(4) 閉会